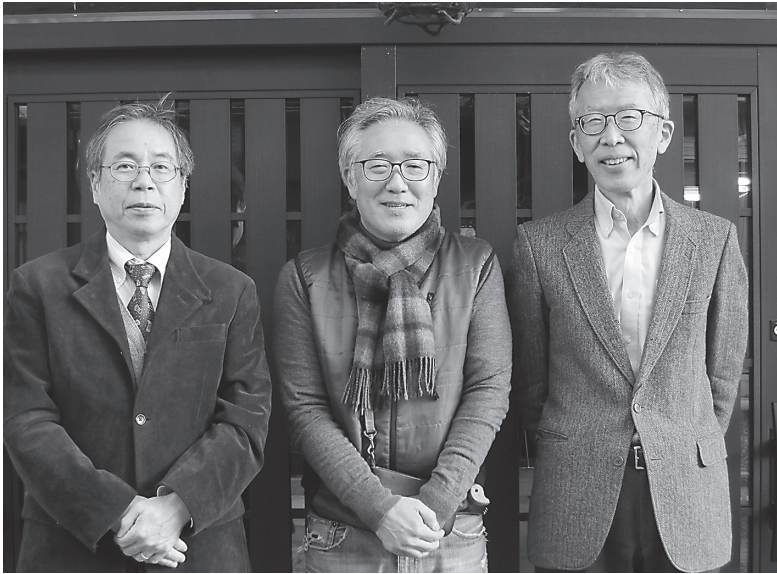


北千住から兵庫・龍野に移転。靴作りと距離を置き、
 建材としての革の可能性に取り組んでいます。



左から稲次氏、高橋氏、吉村氏

(株)パイオニア 代表取締役

西村博氏

NPO法人日本皮革技術協会 理事長

吉村圭司氏

NPO法人日本皮革技術協会 副理事長

稲次俊敬氏

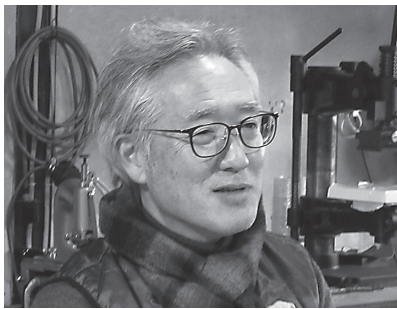
この座談会には様々な業種の色のゲストが登場されていますが、今回のゲストである婦人靴メーカーの(株)パイオニア・社長 西村博様も異色中の異色と言えるでしょう。3年前、革靴の拠点である東京・北千住から兵庫・龍野に移転。いまは本業とは別に、革を生

活材料”としてとらえ、ライフスタイル用途の可能性に取り組みでおられます。早速、お話を伺っていき行きましょう。

コロナ前から注文が細り、
 材料人手も厳しく

吉村 本日はよろしくお願ひします。まずパイオニア様の創業開始からお聞きします。

西村 創業は1963年(昭和38年)です。亡き父・西村高が足立区に紳士靴メーカーを創業し、25年ほど前に婦人靴メーカーになりました。私は2代目になりました。創業当時はヒッピースタイルがファッションになり、厚底のパンタロンシューズがトレンドでした。靴メーカーがすごく元気だったころです。それ以来、当社は60



西村氏

年間、ずっと靴づくりをやってきました。

吉村 龍野に移ってこられたのはいつですか。

西村 3年前の2021年ですね。

吉村 その理由をお聞きかせください。

西村 コロナの前から靴業界も非常に景気が悪くなりました。百貨店の靴売場はリニエアルのたびに上層階に移り、売場の縮小もありました。大手の婦人靴問屋が倒産したりして機能しなくなりました。当社はいわゆるキャラクター問屋さんとも取引があったのですが、こういう特殊なカテゴリーでも売れなくなっていました。

これからどうなるのかなって思うだけで時間が過ぎていく。そのうちに、もう注文が無いんだ、と判断せざるを得なくなりました。

さらに5、6年前から材料面において新しく良いものがほとんど無く、本底などは中国や欧州に買いに出るようになりました。いつまでこういうことを続けるんだら

うと不安でした。国際都市でもある東京という最も固定費と賃金の高い場所で、革靴生産という手工業を行なうこと自体に無理があり、日本の靴作りは間違いなく消滅に向かっている、と思いました。

吉村 将来に明るい材料が見当たらない、と判断されたのですね。

西村 当社は婦人靴メーカーと言ってもエレガンス系じゃない。ラポキゴシさんとか、以前はリーガルさんのマニッシュユとかをOEMでずっとやってきました。ファッションの主流がスニーカーになっている中、不得意なエレガンスをやっても競争には勝てないし、もう閉めるしかないとも考えました。

でも調べてみたら、幸い財務的にはまだ大丈夫でした。そこで、いつそのこと一人で革の営業でもやって行こうかと思ひ、以前から交流のあった龍野のタンナーの社長のところにお話に行つたところ、せっかくだから龍野の観光地を案内するよと言われ、城下町に連れて行つて頂きました。そのことが龍野に移ってきたきっかけになりました。

吉村 龍野はどうでしたか。

西村 とてもいいなと。東京にいても見通しは立たないし、こっちは物価も安く環境も良い。何よりも革や底などの材料を作っている。一つの疑問でもあった「なぜ素材の生産地に完成品工場がないのだろうか？ 生産の効率はまだ上げられるのでは？」。

そこからもう一度、靴づくりにチャレンジしようという気になりましたね。イタリアのマルケやサントクロッチェみたいに、素材集めから完成品まで、ここならやり尽くせるかなって思いました。

吉村 材料がすぐそばにあるって安心感がありますね。

西村 と言つても、製品メーカーとタンナーとの間には距離があります。同じ皮革業界と言つても、残念ながら全くの他人のような関係は続いているのです。何かしなくては...と考える毎日です。

**おしゃれな古民家で
製作・修理する**



古民家を改造した工房



高い天井、広々とした空間の工房

稲次 ところで、パイオニアさんのこの工房は、おしゃれな古民家で、読者にお見せできないのが残念なくらい。いまでもこういうロケーションがあるのでですね。

西村 変にいじらず、昔の造りをあえて残しています。そのかわり、改修費がびつくりするくらい高かったですよ。大工さんも大変です。もともと傾いている長屋なので、傾きを維持した修繕になるのです。

龍野は変に観光地化してないところがすごくいい。また、住んでいる人がとても親切なんです。関東から見た関西のイメージは覆されました。ここは播州なんだと。おかげさまで全くと言って良いほどストレスなく過ごさせて頂いております。

吉村 普通に受け入れてくれたのですか。

西村 そうです

ね。全く何もないかと言ったら嘘になります。たまに距離を置いているな、と感じる時がある程度です。でも、こちらからどんな話しかけていけばいいのだから問題はありませぬ。

稲次 この人たちにとってしばらくは、この人、いつまでここに居てくれるのかなあ、と思っっているのかも知れませぬね。

西村 私は大変気に入ったので、ずっと居たいのですけど。このまま環境の良いところで伸び伸びモノづくりをしていきたいです。

吉村 仕事上ではどうですか。

西村 革の産地なので何かと便利だと思のですが、人によつては直接の取引はいろんな問題があるからやめておいた方がいいと忠告する人もあり、龍野への移転を迷いました。しかし、結局、当社がどっちに近寄って行くかですね。当然、素材づくりに近寄った方がメリットが多いわけです。そこはシンプルに考えています。

ホームページでは、PBのピオネロは、「すべて手作り」で、ハン

ドペイントです。60年間の革靴製造の経験や革加工に対するノウハウを提供します。「安心できる皮革の提供や相談、革靴の生産に対するアドバイスや靴の企画開発のコンサルティングなども行います」「リアル店舗で、革靴の販売・メンテナンス・カスタマイズもっており、レザーワークショップの開催もごいいます」とPRしています。

現状は革靴から少し離れ、革から何が生み出せるかを大きなテーマとして新たな活動を始めています。

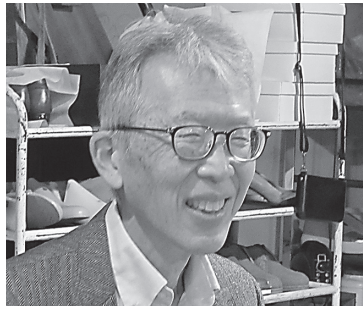
吉村 どういうことですか。

西村 私は靴だけで終わりにしたくない。できれば早く靴を卒業したいくらい。いま一番関心を持っているのは「建材としての革」です。それと修理・カスタマイズです。革の椅子などを修復したりもしますし、縫製がシームレス風のポーチもやっています。これは製靴技術のみで作れるんです。やはり木型作って、釣り込んで革を貼る。これは靴メーカーにしかできない技法です。

手前味噌ですが、革靴メーカー



稲次氏



吉村氏

革を通して消費者に満足を届けたい

の技術です。革を切つて、漉いて、貼つて、ミシンで縫つて……そこまでは他の革製品メーカーさんも同じです。しかし、靴屋はそこから釣り込んで仕上げをします。ここが大きな違いです。革には伸びたり縮んだり、成形できたりというところが最も革らしいところだと思ふんです。靴屋はそれをよく知つて作つています。だからこそ靴だけ作つてはもつたないと思ふんです。これはいまヒット商品になっています。

吉村 それは新しいジャンルですね。先ほど出た「建材としての革」って何ですか？

西村 移転してくる前に不動産屋と話をした時に、革の壁材つておもしろいのでは、という話になりました。いろいろアイデアが出てきました。革は通気性があり、不燃性が高い。革を薄いシートにして、例えばタイル状にする、寸法の違ったものを貼り込んでいくとかね。傷の多い革に型押ししたら有効活

用になり、インテリアとしてのデザイン性が上がります。大昔から、木と石はいまだに加工して使われているじゃないですか。革もそうです。原始時代は、革は衣服にして字を書いた。その後、紙のようになっている。その後、他の、はきもの、袋物、財布、ベルト、楽器等人間が生活する上において、革がなくてはだめなのです。

いま、革製品の修理がすごく多いのです。持ち込まれたものを見ると、革はまだ十分使えるのに、裏材の合皮が経年変化してポロポロになつています。豚革に取り換えると見違えるようになって、大変喜んでもらえます。もちろん靴の修理も当然行つていきます。

また、キャンプ用品とか、熱いものが持てる革手袋とか。生活の中にこれがあったらいいねとか、そういうことで、可能性を地道に広げて行きたいですね。

靴の量産はあきらめたけれど、革製品の再生には道があるのではと期待しています。数量にはつながらないかも知れないけれど、地道にやれば仕事はたくさんあります。

吉村 この工房だけでやるなら、

数は少なくてもいいのでは。

稲次 利用者の口コミで広がりますからね。インターネットがあるから、勝手に早く広範囲に発信されますね。

西村 メーカーも小売もみんな売るだけで、困つた時、誰も何もやってくれない。それで消費者は困つていなのです。

いま、メルカリでグッチやプラダの革製品の中古を数千円で買って、縫つて修正して3万円です。縫つたとか、自慢している人がいます。革だつたらメンテナンスできるし、仕上げ直すとみんなびっくりします。アンチック仕上げで年代物みたいにするのもできます。

高付加価値の革の販売もいいと思います。いまトルコの革も扱つてやっています。「ピオネザ」 というブランドを付けて販売しています。製造メーカーとしておすめの革という感じで。

いま革の値段がどんどん上がつていきます。通常のステアでもデザイン当たり60円半ばとか。とんでもないことになっていきます。このまま行けば、国産皮革の靴・かばんは



工房内のショップ

市場から消えていつてしまいま
す。タンナーの生産量もさらに減
っています。今後、付加価値の高
い新しいことを考えないとけな
い。完成品メーカーと一緒に、
靴・カバン以外の皮革製品の開発
を進めていくことが近道だと思
います。

吉村 龍野は革の産地で、西村さ
んは靴を作ることができる。タン
ナーさんとコラボしないのです
か？ タンナーからの提案とかは
ありませんか。

西村 それが多くないのです。タ
ンナーは沢山あるのですが、それ
ぞれ何が得意なのかがよく分か
りません。龍野へ来るぎつかけを
作ってくれたタンナーさんとは、
スペースを借りて靴の製造機械を
置かせていただき、タンナーの中
に靴の製造ラインがあるという、
この世に無い形を作ることが出
ました。

それ以外のタンナーさんとはあ
まり交流の機会が見当たらないの
です。なぜでしょうか？ 私もち
つちに来た時、意気込んでいまし
ただけで非常に残念です。

吉村 えっ、そうなのですか。

西村 実際、靴業界にも元来「全
社前向きに実行すべき！」的な雰
囲気は感じられない。それと同じ
かもしれませんね。

稲次 P B「ピオネロ」の話を。

西村 「ピオネロ」は、ちよつと
おとなしくしています。

稲次 こっちでは作っていないの
ですか

西村 多少作っています。韓国か
らがオフアールが来まして。うち
のカラーリングとかを生かした靴が
欲しい。メイド・イン・ジャパン
って入れてくれね。

でもOEMは儲からない。一生
懸命にやれば逆に赤字が膨らむ。
事業として成り立ちません。「ピ
オネロ」を始めた時、周囲から非
常にニツチだと言われました。悔
しかつたけれど、量産メーカーと
して、沢山作っていくことはで
きなかった。以前、東京・国分寺
に直営店作ったこともありましたが、
販売がついてきませんでした。

日本のニツチ市場って、ほんと

に小さい。でも世界に視野を広げ
たら、案外大きいのかなと思いま
す。かつてトランクを持って、海
外に飛び込み営業をしたことがあ
ります。行くとコリアか、チャイ
ナかつて言われる。日本人だつて
いうと、何を持ってきたのって聞
かれる。2、3回行ったら注文が
入るようになりました。

日本人は、自動車はバツと営業
できる。それ以外はダメかとい
うと、そうではなく、誰も日本の製
品のことを知らないだけなので
す。日本で靴を作っているなんて
いうと、どの外国人もびつくりす
るんです。やっぱり製造業は輸出
できて、初めて認められるのだと
実感しています。

革はライフスタイル素材 として魅力的

稲次 日本エコレザーの紹介をさ
せてください。これは2009年
に人体に安全・安心の革・革製品
を普及させようっていうところか
ら始まりました。

西村 そんなに前からですか。

吉村 革と革製品の認定が始まっ

会社概要

社名：(株)パイオニア

創業：1963年（昭和38年）

資本金：1,200万円

代表：西村 博

業務：革靴製造・販売・修理/皮革販売/皮革製品リメイク

〒679-4161 兵庫県たつの市龍野町日山342-6

TEL 0791-73-1385

Instagram : <https://www.instagram.com/shoespionero/>

稲次 建材ではホルマリ

西村 「安全・安心」は、非常に重要なキーワードですよ。先ほどからお話している革の建材には認定が必要でしょうね。そこがないとライフスタイル素材の中に組み込まない。革の壁紙はどんな糊を使っているのとか。アレルギーが出ないとか気になる要素は少なくありません。

たのは14年前です。準備段階で5、6年かかりました。世界の有害化学物質とされているものを調べたら日本の革の6割くらいが基準をクリアしました。これならいけるぞつてことでスタートしました。一般社団法人日本皮革産業連合会が、有害化学物質に対して世界基準をクリアした革・革製品を認定しています。また、その工場が排水・廃棄物を適切に処理しているかどうか審査します。

稲次 製品に付加価値を付けて市場に出したらどうですか。
西村 ホルマリンはダメですね。
稲次 この制度では、有害化学物質としてホルマリンの分析も行います。以前、座談会に出たいた兵庫県明石市の住宅メーカーさん（(株)Labo 渡辺喜夫氏 2021年8月号掲載）が住宅建材に日本エコレザの認定取得革を使って安心・安全な住宅を提案

日本エコレザの6条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質を検査している（ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料）
- ④臭気が基準値を満たしている
- ⑤適切に管理された工場で作られている（排水、廃棄物が適正に管理された工場で作成）
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上

日本エコレザのロゴが変わります

従来のロゴ



新ロゴ



Japan Eco Leather

(従来のロゴも当然の間、併用してご使用いただけます)

「日本エコレザ座談会・対談」 「認定革・製品リスト」は www.japan-ecoleather.jp の項でご覧いただけます

されておられます。
西村 私は革を壁に貼りたい。タナーが安全・安心の革を大量に生産して安くしてくれれば、毎日出荷をされるようになる。それを開発していきたいですね。そのためにもまずは営業をしっかりとこなしてはなりません。製造者の最も不得意なところですが。
吉村 希望が見えてきましたね。
西村 見えています。見にいきま